

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・松魚亭

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：山岸与作 幹事：上田忠信

情報委員長：中村三次

1982・12月30日 第231号

外から見た日本文化

韓国梨花女子大教授

李 卸 寧 氏



日本的ということ外国文化から見ると、大きなものを、小さく縮めるという志向がある。

私は文学者だからその面からお話すれば、世界で一番短い詩は俳句です。5・7・5のたった17文字に、広々とした大宇宙を、移り行く季節を、人生の複雑な感情を、表現できる民族は、この地球上で日本人しかいない。

韓国も「こめ」文化ですが、韓国では言語的にも、量的に繰返しとか広げる文化です。食事も大きな器に山盛にして食べ、大きな盃でがぶがぶ飲む。韓国では接頭語にワンをつければ、並のものより大きくなる。日本語では大きくする接頭語はなくて、豆自動車、豆本等、豆をつけて小さくする。細工に更に小をつけて小細工といい、緻密に繊細に物を作る。外来語さえも、リモコン、テレコ等カタカナ言葉にして小さく縮め完全なものとする。日本語そのものも省略言葉であって、「こんにちは」「どうも」等は、言葉の節約である。

石川啄木の有名な歌「東海の小島の磯の白砂に我泣ぬれて蟹とたわむる」は、「の」が2つ以上入っている。韓国語では「の」を二つ以点重ねたら文章にならない。東海、小島、白砂、蟹は、単語は同じものであるが、文法形態が、「の」が重なっていて翻訳できない。意識構造が違う。意識の文法というものがある。東海からはじまり小島にぐっと縮まり、更に磯、白砂になり蟹とたわむれる。31文字の中で、無限大の海があつという間に、涙の一滴に縮まるという創造力は、日本以外の詩に類例を見ない。

平安時代の扇、江戸時代の張灯、昭和の折たゝみ傘等、古来日本人は縮めるものを作って来たが、エレクトロニクスはまさにその先端といえる。弁当、生花、茶道、庭園等小さいもの繊細可憐なものに対する愛情が、日本的ヒューマニズム、美的感覚を作った。芭蕉の句に「よく見ればなすな花さく垣根かな」というのがあるが、この見つめる心こそ日本的であり、その緊張感こそが頑張る心になる。これが戦後の焼野原から、今日のGNP世界第2という奇跡をとげさせた。これも実は拡大し巨大になろうとした心でなく、凝縮という逆の戦略が成功したのである。

日本企業の強さは、大企業といえども家族的経営にあるという。今日貿易摩擦等が問題となっているが、和を重んじ繊細に見つめ、人類の愛、美しさ、ロータリークラブの一つの希望である平和へと、日本の縮み志向の成功として、本当の広がりへつながる可能性がある。

—金沢北RC例会講話より— (文責 中村三次)

国際ロータリー第371地区韓国 南光州RCとの姉妹提携友好親善訪問を終えて (その2)

国際奉仕委員長 飯野 健志

異国での初めての国際式典とあって、一同興奮の面持で着席、調印式典が始まった。金永仁会長 鄭誠一総務（幹事）の歓迎の挨拶、経過報告の後、金、山岸両クラブ会長が、両クラブ国際奉仕委員長立会いの下、姉妹提携締結文書（日韓二通）に夫々厳かに調印を完了、山岸金沢北RC会長の感謝と友好へのスピーチ、光州市副市長の祝辞のあと双方よりのバナーの交換、金永仁会長の書の師による「肝胆 相照らす……」の書を当クラブへ、上田幹事より、坂下会員作の漆芸、平卓、俵屋のじろ飴60ヶ、金沢市紹介パンフレット、ウイスキー、煙草などを先方クラブへ贈呈した。全員で両RCの今後の友好関係の増進と発展を祈って、乾杯の後、韓国伝統の音楽芸術である、カヤ琴と長鼓の演奏、弾き語りのアトラクションを鑑賞しながら、歓談、記念撮影など、和気藹々のうちに式典例会を終了した。金会長は「光州市には色々な観光資源があり、御案内したいのですが、皆さんの予定の時間が余りに少いので、今回は洵に残念ですが、次回はゆっくりと訪問して下さいことを熱望します」と私共への最大級の歓迎の言葉と惜別の辞を送ってくれました。特に、国情の違いはあるにせよ、会員婦人達のロータリー行事への絶大な協力、国際人としての誠見の光実度には驚異、敬服の限りである。例会場で全員に分けられた当日のクラブ会報（週報）は、トップに、この姉妹結縁式の式順、次に、金永仁会長、光州市長金良培氏の祝辞、記念辞、日韓両国語の姉妹結縁書、同経過報告などが詳細に掲載され、又総務（幹事）鄭誠一氏作の歓迎詩が大きな紙面を占め我々の心を打った。こゝにこれをほん訳して、諸氏の共感を得たい。



歓迎詩

今は我等の近き隣、金沢北の^{はらから}同胞よ、今日の日までの、長い月日をもたらした事縁が集成して、千代のカヤ琴（民族楽器）の施律に交す情感を分ち持つ時をもちましよう。黄金色に稔る秋に枕して、美しい落葉の散る音に耳を傾け、共に歌おうではないか！

11月の短かい夕焼けが、無等山の中腹に訪れれば、一杯の雪緑茶（無等山特産の茶）に交す旅情のなか、青瓷色（高麗青磁）に心酔してみよう。一つの軸を廻す我等、つゝ、まじやかな生の揺籃を抱き、明日の日のための感謝の折りを捧げましよう。

幹事 鄭氏作の、この詩に謳われた限りない人間讃歌、国際人としての豊かな文学的才能に、私は、今迄の自らの不見識を恥じた。南光州RCの人々とは、このように直情で、ヒューマニスティック、浪漫的で深い人類愛に目覚めた同胞であることを決して忘れてはいけない！と、決意を新たにした。

「はらから」と我々に呼びかけた南光州RCの人々との交歓は、多数の会員夫人を交えた、韓国三大名刹の一、松廣寺（光州市より約60km）観光で、再び、その絆は深まったようである。（つづく）

次年度理事・役員名簿 《1983.7～1984.6》

12月16日クラブ年次総会にて選任。

| | | | |
|--------------|---------|----------------|-----------|
| 会 長 (理事) | 大 村 精 二 | 社会奉仕 (理事) | 二 木 正 樹 |
| 副 会 長 (理事) | 塩 村 喜代次 | 国際奉仕 (理事) | 石 丸 幹 夫 |
| 次 期 会 長 (理事) | 塩 村 喜代次 | 職業奉仕 (理事) | 坂 下 直 人 |
| 副 会 長 (理事) | 沢 田 哲 夫 | 例 会 (理事) | 池 島 乙 市 |
| 幹 事 | 佃 一 成 | 拡 大 (理事) | 浅 田 豊 久 |
| 副 幹 事 | 小間井 宏 尚 | 企 画 (理事) | 本 岡 三 千 郎 |
| 会 計 | 上 田 忠 信 | 情 報 (理事) | 中 村 三 次 |
| 会 場 監 督 | 池 島 乙 市 | 親 睦 (理事) | 高 畠 菊 丸 |
| 直 前 会 長 | 山 岸 与 作 | 修 練 (理事) | 小 杉 善 二 |
| 直 前 幹 事 | 上 田 忠 信 | 友 好 (理事) | 俵 外代吉 |
| | | 地 域 開 発 (理事) | 越 野 民 男 |
| | | ク ラ ブ 奉 仕 (総括) | 塩 村 喜代次 |
| | | 青 少 年 (担当) | 沢 田 哲 夫 |
| | | 理 事 | 柴 田 三 郎 |

